2017年08月22日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【ジャクソンホールのシンポジウム雑感】

日本の「お盆休み」が終わりました。

だから、多くの方々が、休み明けで、仕事についているのだろうと想像しています。

しかし、マーケット（外国為替市場）は、まだ「夏休み相場」の真っ最中です。

まだ、積極的に、参加するべきところではありません。

今週のトピックは、「米ワイオミング州ジャクソンホールで開かれる、米カンザスシティー連銀主催の年次シンポジウム」でしょう。

シンポジウムの開催日は、8月24日(木)～26日(日)です。

このシンポジウムを前に、思惑が交錯している様子だ。

ドラギＥＣＢ総裁が、何を発言するのか、また、イエレンＦＲＢ議長が、何を発言するのか、大いに注目されている。

ドラギＥＣＢ総裁もイエレンＦＲＢ議長も、8月25日（金）に予定されている。

確かに、ジャクソンホールでの発言がきっかけになって、その後の相場の流れが見えた時も、過去にはあった。

だから、市場参加者は、大いに注目する。

しかし、正直なところ、今年に関しては、すでに、大まかな答えは見えている、と考えている。

例えば、ドラギＥＣＢ総裁が、何を発言するのか、非常に興味深いが、前回のＥＣＢ理事会後の会見で、秋に金融政策の変更を示唆している。

しかし、ジャクソンホールのシンポジウムで、その具体的な内容を話すことは無いのだろ

う、と考えている。

まだ、秋になっていないのだから、まだ、具体的な話し合いをしていないに決まっている。

もちろん、ドラギＥＣＢ総裁が、その胸の内を吐露する可能性を否定しないが、その可能性は低いだろう。

ドラギＥＣＢ総裁が話すのは、ＥＣＢの大局の政策だろう。

その中に、テーパリング（金融緩和策の脱却）が盛り込まれるのか、あるいは、発言を避けるのか、非常に興味深い。

仮に、発言を避けたからといって、テーパリング（金融緩和策の脱却）が否定される訳では無い。

だとすると、テーマに上がれば、大きくクローズアップされるだろうし、テーマに上がらなくとも、否定される訳でも無い、ということだ。

イエレンＦＲＢ議長の発言も、注目されているが、大きなサプライズは無いだろう、と考えています。

すでに、6 月のＦＯＭＣ後の会見で、「年内に、もう１回の利上げ」で決着した、と考えます。

そして、バランスシートの縮小に関しても、年内に開始し、当初月間 100 億ドルのペースで縮小することが発表されました。

イエレンＦＲＢ議長は 6 月のＦＯＭＣ後の会見で、「比較的早期に」バランスシート縮小を開始する可能性がある、と表明したので、9 月に、バランスシート縮小を開始し、12 月に、政策金利の 0.25%の引き上げを想定しているのだろう、と考えます。

++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++

（2017 年 08 月 22 日東京時間 15：45 記述）